

## 1、本園の教育理念・目標

名前 酒井 義信

元気な子 元気で明るく、たくましく、生き生き活動できる子  
 つよい子 やさしい心を持ち、はい、ありがとう、すみません、わたしがしますと言える心のつよい子  
 創造する子 よく見、よく聞き、よく話し、個性豊かにのびのび表現、創造する子  
 ・あらゆる環境に能動的に働きかける事ができる心と体を育てる。

## 2、本年度、重点的に取り組む課題

- ・遊びを深め、年齢を超えて広げていく子ども。
- ・心地よい暮らしができる環境を考える。
- ・声を掛け合いながら整理整頓を心がける。

## 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	理由
教育・保育目標について（重点的に取り組む課題）	教育・保育目標や重点について意識して保育に当たっていたという評価が多かった。 整理・整頓という具体的に評価しやすい重点内容に関する記述が多かった。 今後は、保育計画の様式に重点を見やすく記述する等、常に意識され活用される工夫が必要と考える。
保育計画	2・3歳合同、年中長合同、幼保合同のミーティングが行われ、年齢によりどのような遊びや生活が行われているかの交流が行われていた。 指導計画に基づいて立案した週案を、パート職員を含めて配布したり、LINEで見られるようにする等、活用方法が工夫されていたクラスがあったが、さらなる活用改善に取り組んでいきたい。
保育環境	遊び保育で大切な環境構成が、子どもの興味や関心を汲み取りながら進められていたという評価が多かった。 しかし、いろいろな素材を提供することで整理整頓が十分にできなかったという反省も見られた。 また、園庭には菜園はじめいろいろな遊び環境が整えられているので、子どもは十分活動できたとの評価が多かった。 今後も年齢の発達に応じた、環境の更なる工夫改善に努めていきたい。
安全への配慮（リスクとハザード）	保育計画の中で危険状況を把握しながら、環境設定や保育の計画をしていく事が遊び保育では大切となるとの記述が多かった。子どもの主体的な活動も、安全に活動できることを第一にして保育を進めていきたい。
チーム保育・同僚性	担任を中心としたチームとして、みんなで意見を出し合い、交流しながら保育を進めることが大切だが、組織が大きくなり多くの人と意見交流する機会は時間的にも限られてきている、との記述があった。そこをどのように確保するかが求められていると考え、時間の確保、交流の方法等をいろいろ工夫していきたい。
保育内容・方法	コーナーを設置して遊び中心の保育を行うことによって、子どもたちの自立性は育ってきているとの評価が職員と保護者からも多かった。 一人ひとりに対応した指導はまだ十分とは言えない面もあるが、そこを目指して常に取り組んでいたとの記述が多くあった。 子ども理解に基づく環境の設定や個に応じた援助についてさらに重視して取り組んでいきたい。
保護者との関わり	コロナ架で十分対応できないこともあったが、保護者の方には多くのご協力をいただいた一年であった。 園日より、連絡アプリ、ストーリーパーク・アプリによって、園や家での子どもの様子の交流や連絡がこまめに行われていた。 また、お迎え時、連絡帳、電話の際も、子どもの様子を伝えるように取り組んでいた保育者も多い。 連絡アプリ、ストーリーパークは写真も掲載できるので、よりこまめな情報発信がなされたと考えるが、半面、電話や連絡ノートなどでの連絡も、気持ちが伝わるツールなのでバランスを大切にしたい。
職務（係）の遂行	一人ひとりが努力していたと考えられるが、評価は個人によって開きが大きかった。
専門性の向上（研修など）	コロナ禍でオンラインによる研修が多かったが、時間外の研修のため子どもの世話や家事で参加が難しいこともあったとの反省も見受けられた。 録画して勤務時間内に観られるような工夫によって、多くの保育者が研修に参加できる体制づくりを考えた。
食育	園庭や園の畑で野菜等の食物を栽培したことによって、嫌いだった子も挑戦して食べられるようになったとの評価があった。 毎日世話ができる場所の畑は魅力的だが園庭の菜園も限られている。
子育て支援	担任としては、子育ての相談に応じたりして支援していた。園としては、ピョピョクラブを開催しているが、乳児の利用が増えたので、それに伴い親子ふれあいわらべうた遊びや環境設定を工夫した。 コロナ架で回数が減少したが、感染が収まったら回数を元のように増やしたい。
地域との連携	子どもたちの社会性は、地域の人たちとのふれあいからも実体験として育っていくと考えます。保育者がそのことを理解してモデルとなるようにしていることの記述が多く見られた。